

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成29年度

日臨技関甲信支部・首都圏支部 医学検査学会 (第54回) からのお知らせ

『学会情報は学会HPとSNSの活用で』

HP部長 矢作 強志

平成29年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(54回)では、情報発信ツールとして学会HPはもとより、学会専用TwitterやfacebookのSNSも開設し情報をお届けしています。既にフォローをされている会員の皆様、ありがとうございます。フォローがまだの方は下記アドレスよりお願いします。

今学会では特別企画、公開講演、研究班企画、一般・CM演題等に加え、若手中心の企画も組み込まれ盛り沢山となっております。詳細な内容については次回以降の執筆者に怒られてしまいますので触れませんが。

学会HPではこのような企画情報やお知らせ等をどんどん、どんどん掲載&更新しSNSも利用し情報発信をしていきます。また約40秒程度の学会CMも掲載していきます。こちらも楽しみにしてください。

また、埼玉県医学検査学会では抄録集は事前に会員の皆様のお手元に届きますが支部学会では学会参加者のみ手にできます。今学会では関甲信支部・首都圏支部学会では初となるWeb抄録を採用します。事前に聴きたい講演や演題をPick upし、無駄のない動きで楽しんでいただきたく思います。

学会当日もSNSにて、どんどん情報発信をと思っております。

学会HP : <http://www.sairingi.com/academy/kankoushinsyutoken54/>

Twitter : @54kan_shuto

Facebook : <https://www.facebook.com/kankoushinsyutoken54igaku/>

採血室のトラブル・苦情は多く、特に痛みに対するものが多い。苦情を訴える患者をタイプ別に分け、その対処について説明があった。未然に防ぐことはもちろん必要だが、苦情の対応には患者側に立って考えること、そして対応したスタッフの労をねぎらうことも大切だと説明があった。

手技および医療事故については、ガイドラインを参照し、手順書の作成、および定期的なスタッフ同士の読み合わせが必要とのことであった。特に、訴訟問題になった場合においてマニュアル、手順書に準じて業務を遂行していたかどうかが重要であり、事例を挙げ、その重要性について説明があった。

本研修会には新人からベテランまで多くの会員が参加しており、どの層にも大変有意義な内容であった。
(文責：石井 孟)

テーマ 平成28年度精度管理報告とTARCについて

主催 血清検査研究班

実施日時：平成29年4月20日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講演 1：平成28年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告

講師：藤代 政浩（獨協医科大学越谷病院）

講演 2：アトピー性皮膚炎に関する最近の話題とHISCL TARC

講師：原 敬志（シスメックス株式会社）

参加人数：会員15名 賛助会員1名

出席した研究班班員：庄司和春 大島まりこ 鯨井智子 多川裕介 岩崎篤史 天野直樹
鈴木淳子

研修内容・感想など

講演1の精度管理事業報告は、今年度も全体的に良好な結果が得られたということであった。ただ記入の仕方の問題等で評価が悪くなってしまった施設もあるようなので今年度から注意して欲しい。免疫検査項目は標準化がされていない項目が多数あり、各試薬メーカーで値が異なることがあるため、自施設の試薬の特徴を理解しておくことが大切だと改めて感じた。

講演2のTARCについてだが、まだ院内で実施している施設数が少ないとのことであったが大変有用性のある検査項目であることが理解できた。TARCとはケモカインと呼ばれる免疫調節作用をもつ物質であり、臨床的有用性としては、

- ①アトピー性皮膚炎で上昇し、他の好酸球やLDに比べて皮膚状態の変化を短期間に反映する。
- ②寛解導入時に測定することで治療効果判定や治療薬変更検討ができる。
- ③見た目には分からない皮膚炎症の活動度を客観的な指標として評価できるなど患者病態把握ができる。

などがあげられている。

治療の進め方として成人では500pg/ml以下になることが1つの目安値とされており、正常域付近となってから薬剤を漸減することが重要なポイントであるとのことであった。また検査においては成人と小児では基準値が全く違うため注意していただきたいとのことであった。

今回の研修会も大変勉強になり、今後に生かしていきたいと思った。

(文責：鈴木淳子)

テーマ もう一度確認しよう！

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成29年4月21日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講演 1：2017年CLSIドキュメントの主な変更点

講師：松田 聡（ベックマン・コールター株式会社）

講演 2：平成28年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告

講師 1：渡辺 典之（埼玉医科大学国際医療センター）

講師 2：酒井 利育（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講師 3：川又 大右（株式会社 戸田中央臨床検査研究所）

講師 4：永野 栄子（獨協医科大学越谷病院）

参加人数：会員45名 賛助会員7名

出席した研究班班員：渡辺典之 永野栄子 金田光稔 酒井利育 砂押克彦 牧俊一
小西光政 森圭介 小棚雅寛

研修内容・感想など

本年度最初の研修会で、「もう一度確認しよう！」を主題として、「2017年CLSIドキュメントの変更点と「平成28年度埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告」の2つのテーマについて各講師に講演していただいた。

2017年CLSIドキュメントの主な変更点では、疫学的カットオフ値 (ECV) の定義の明確化について説明があり、それに伴い腸内細菌科細菌および淋菌におけるECVの設定について解説された。また、*Pseudomonas aeruginosa* やブドウ糖非発酵菌におけるコリスチンとポリミキシンBのブレイクポイントの変更や削除について説明があった。また、新たなカルバペネマーゼ確認試験Modified Carbapenem Inactivation Method (mCIM) の測定手順や検査成績 (感度・特異度) について解説された。mCIMは、検査方法が簡便で特別な試薬等も不要であり、感度・特異度ともに報告では良好な結果であった。CLSIドキュメントに記載されたこともあり、CPEが疑われた場合には有用な検査法と感じた。他にも*Staphylococcus aureus* (SCVs : small Colony variant) とCNSのオキサシリンについてのコメント追加が解説された。CLSIドキュメントは毎年更新されているため、新しい知識を得て日々の検査に役立てることが重要と感じた。

精度管理報告と解説では講演1の講師が渡辺氏に変更になった。各講師からフォトサーベイ (バーチャルスライド含む)、同定、薬剤感受性、グラム染色の結果と評価方法について説明していただいた。フォトサーベイは、全ての項目で評価Aが97.5%以上と極めて良好な結果であった。同定では、*Cryptococcus neoformans*の設問で評価Aが83.7%にとどまったため、臨床所見や選択培地の特性について写真を用いて詳細に解説された。薬剤感受性検査は、耐性菌の基準やディスク拡散法の判定方法の説明があり、グラム染色では大腸菌のグラム染色像と急性単純性膀胱炎の起炎菌や分離菌について解説していただいた。

各設問において評価が悪かった施設は、問題点を見直し、改善していくことが重要である。

(文責：渡辺典之)

テーマ 初心者必聴！ 知っておきたい輸血検査トピックス

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成29年4月27日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講演 1：平成28年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告

講師：宮川 勇（小川赤十字病院）

講演 2：2017年輸血の最新トピックスはコレだ！

講師：田中 良（埼玉県赤十字血液センター 学術課）

参加人数：会員45名 賛助会員3名

出席した研究班班員：渡邊一儀 神戸考裕 長谷川卓也 佐藤祥子 齋藤翔子 久保居由紀子
野呂光恵 小林真弓 山田攻

研修内容・感想など

今年度最初の研修会であり、精度管理の報告会を兼ねた新人対象の輸血検査講義と、血液センター学術による輸血最新トピックス紹介の2演題であった。宮川氏の講演は医師会精度管理の報告データの解析を前提にしながら、輸血検査の基礎を説明する内容であった。医師会の精度管理はシンプルな解答を確実に判定させる内容であり、昨年より成績が良好になったのは喜

ばしい。しかし以前リスト外からの記入による減点が減らないのが残念であった。本講義により精度管理の判定結果がより向上すればと願っている。

田中氏の講演は、昨年の様々な輸血業務の動向より、今年度の輸血関連話題を模索する挑戦的な企画であった。内容は血液製剤の感染対策から、不規則抗体検査項目の変更、副作用対策等多岐にわたる幅の広い講演であった。血液センターの将来を見据えた様々な取り組みは、今後医療機関である我々参加者が各施設で今後検討すべき業務目標として活用されるよう期待したい。当日の会場では演者の講演内容を巡って参加者から様々な意見や要望がでる等熱気に包まれた質疑が行われた。
(文責：山田 攻)

テーマ 顕微鏡の扱いや写真撮影の基本を身に着けよう！

主催 病理検査研究班

実施日時：平成29年4月28日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：基礎教科－20点

講 演 1：顕微鏡の使用法と保守について

講 師：菅原比呂澄（オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社 機器企画部）

講 演 2：きれいなマクロ・ミクロ写真を撮ろう！～ SNS用写真にも応用できます！～

講 師：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院 検査部病理）

参加人数：会員57名 賛助会員1名

出席した研究班班員：岡村卓哉 森田繁 荻真里子 金泉恵美子 三鍋慎也 細沼佑介
関口久男 高橋俊介 今村尚貴

研修内容・感想など

顕微鏡やカメラは病理検査業務では必要不可欠な機器である。今回の研修会では顕微鏡やカメラの原理を理解すること、そして基本操作や保守、写真撮影の応用テクニックについて2人の講師にご講演いただいた。

講演1では、顕微鏡の原理として観察の3つの要素である倍率・分解能と開口数の関係・コントラストをわかりやすく解説していただいた。基本操作では長時間の鏡検による疲労蓄積が、顕微鏡を未調整のまま使用してもヒトの眼がピントを調整してしまう身体の原因であることがわかった。観察者が十分に顕微鏡の性能を活用でき、また、観察者の身体的負担も軽減できるよう調整や操作法、保守を熟知しておきたい。

講演2では、カメラの仕組みなどの基礎知識からミクロやマクロ写真の撮り方、応用テクニックを説明していただいた。病理検査業務では必要不可欠なカメラであるが、日常生活においてもスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなど取り扱いが簡単なものも多く普及しているため、今では身近な機器である。だが、撮影時に性能まで熟知してそのシーンに合わせた最良の撮影を行うことは難しい。今回の講演を業務に生かしてもらうことはもちろんだが、それ以外でも活用して楽しいカメラライフにしたいと思う。

(文責：金泉恵美子)

テーマ 生理機能検査の基本 その1

主催 生理検査研究班

実施日時：平成29年4月29日 14時00分～17時20分

会 場：自治医科大学附属さいたま医療センター 講堂 点数：専門教科－20点

講 演 1：知っておきたい心電図の基礎知識

講 師：早川 勇樹（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講 演 2：知っておきたいスパイロメトリーの基礎知識

講 師：家城 正和（埼玉県立がんセンター）

講 演 3：実践！安全な患者移乗法（実技体験可）

講 師：石田 泰樹（埼玉県済生会栗橋病院 リハビリテーション科）

参加人数：会員37名

出席した研究班班員：早川勇樹 野本隆之 仲野浩 瀧澤義教 家城正和 関口知詠子
田名見里恵

研修内容・感想など

生理検査研究班では毎年4、5月に新人向け研修会を行っている。今年度初めの研修会は「生理機能検査の基本その1」というテーマのもと生理検査業務の中でも基本となる検査を取り上げた。講演1では「知っておきたい心電図の基礎知識」を早川氏にご講演いただいた。正しい記録方法から始まり、判読に必要な心臓の生理学的特性、実際の波形判読についてと系統立った講義であった。波形からは分かりにくい電極の付け間違いを防ぐコツなど、分かり易くすぐに役立つポイントも講義されていた。

講演2は「知っておきたい肺機能検査の基礎知識」と題し、家城氏にご講演いただいた。ある新人技師の肺機能検査室での1日というストーリーが提示され、精度管理から実際の検査法について問題点を受講者にも考えていただく導入部は、まだ実務に携わることの少ない方にも取り組み易い内容だったと思われる。また感染対策の必要性については他院での事例も引用して説明していただき、新人技師のみでなく自施設での実施方法を振り返るよい機会であった。

講演3は理学療法士の石田氏を招き「実践！安全な患者移乗」についてご講演いただいた。人の基本動作の仕組みを動画資料で解説いただいた後、実際に受講生全員でペアを組み技師役と患者役に分かれて実技を行った。患者移乗は必要な場面は日常多々あるが、検査技師は学ぶ機会が少ない。患者役も体験することにより、どのように介助すると移乗が安全に行えるか実践できたことは良い機会であった。実技指導にはリハビリテーション科よりサポートスタッフ3名にもお越しいただき、細やかなご指導をいただけたことは非常に有意義であった。

(文責：田名見里恵)

求人案内

○株式会社 ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：049-234-7310 人事課 古田島

○めぐみクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-224-1600 事務長 目時亮

○医療法人社団 鴻愛会 こうのす共生病院

採用条件：正職員
連絡先：048-541-1131 内線506
臨床検査科 山本

○医療法人 山柳会 塩味病院

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-467-0016 事務長 坂東直泰

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○社会医療法人社団 尚篤会 赤心堂総合健診クリニック

採用条件：正職員
連絡先：049-242-1181
採用担当 松本ひとみ

○社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院

採用条件：正職員
連絡先：04-2953-0909 事務部 田村昌子

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

平成29年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第2回 理事会議事録

日時：平成29年5月11日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：(理事)津田 神山 岡田 矢作 小山
奈良 長岡 猪浦 石井 松岡
小島 濱本 藤井 長澤 神嶋
伊藤 濱田 山口 武関 阿部
(監事)遠藤 細谷

欠席：(理事)島村 鳥山

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告(平成29年4月13日～平成29年5月10日)

4月13日(木)平成29年度第1回理事会：

津田、神山、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、石井、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、伊藤、濱田、山口、鳥山、遠藤

4月21日(金)第54回日臨技関甲信・首都圏支部

医学検査学会第3回実行委員会：
津田、濱本、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、石井、松岡、小島、藤井、長澤、濱田、山口、鳥山

4月22日(土)会計部会：松岡、小島、石井

4月22日(土)埼臨技会計監査：

津田、神山、松岡、小島、石井、遠藤、細谷

5月1日(月)第1回検査室管理運営委員会：

津田、島村、藤井、濱田

5月9日(火)第1回表彰審査選考委員会：

津田、神山、岡田、矢作、小山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1)厚生労働大臣表彰に、神山副会長、岡田副会長、矢作常務理事、小山常務理事の4名の受賞が決定した。

表彰式：日時 平成29年6月23日(金)

午後3時30分から

会場 霞山会館 霞が関コモン
ゲート西館37階

尚、表彰式には受賞者4名と津田会長が出席予定。

2)公益社団法人埼玉県看護協会研修センター竣工式に、津田会長、岡田副会長が出席することとなった。

日時：平成29年6月1日(木)

午前11時40分から

3)日臨技へ病棟業務実施施設調査について回答を行った。

4)第12回日本臨床検査学教育学会学術大会の後援名義の回答を行った。

5)第15回生物試料分析科学会関東支部学術集会后援の回答を行った。

6)第19回埼玉脂質代謝研究会の名義後援の回答を行った。

7)人間総合科学大学より講師派遣の依頼があり、神山副会長を派遣することとした。

8)(一社)群馬県臨床検査技師会 法人化30周年記念式典及び祝賀会に、津田会長、神山副会長が出席することとなった。

日時：平成29年7月15日(土)

午後4時30分から

会場：ホテルメトロポリタン高崎

6階「白鷺」「丹頂

2 総務部

1)「埼臨技だより」第456号、5月15日発行予定

3 事業部

1)4月26日、深谷市に今年度の深谷市福祉健康まつりの参加申し込みを行った。

2)5月1日、第1回検査室管理運営委員会を開催した。

3)第2回埼臨技・技師養成校意見交換会開催について

日時：平成29年6月20日(火)

18:00から

場所：大宮ソニックシティ701号室

4 学術部

1)特になし。

5 精度保証部

1)特になし。

6 会計部

1)平成29年度正会員費134名分670,000円、入会金17名分17,000円、合計687,000円の入金があった。

2)極東製薬工業より、平成28年度下半期分の疑似便特許使用料19,586円の入金があった。

3)平成29年度退会者4名分の返金(5,000円×4名)を行った。

4)石井印刷へ、埼臨技だより455号印刷代

163,987円を振り込んだ。

- 5) 理事会各部、各研究班へ前渡金を振り込んだ。
- 7 精度管理委員会**
- 1) 6月27日、平成29年度埼玉県医師会精度管理会議開催予定。
- 8 一都八県会長会議**
- 1) 特になし。
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) 特になし。
- 10 日臨技**
- 1) 6月24日、平成29年度日臨技定時会員総会開催予定。
津田会長、神山副会長、岡田副会長、小山常務理事、山口常務理事が出席予定。
- 11 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会**
- 1) 4月21日、第3回実行委員会を開催した。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成29年度分)
平成29年 5 月 1 日現在
会員数 2,769名
(新入会員 81名[平成28年度会員数2,730名])
賛助会員 40社[平成28年度 82社]
承認された。
- 2) 平成29年度役務分担について
承認された。
- 3) 埼臨技事務員の勤務体系の変更について
承認された。

- 4) 平成29年度埼玉県公衆衛生事業県知事表彰候補者について
承認された。

2 総務部

- 1) 特になし。

3 事業部

- 1) 特になし。

4 学術部

- 1) 日臨技精度管理調査データ使用許可願い及び埼玉県臨床検査精度管理事業報告書データ使用願いについて(一般検査研究班)
承認された。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 特になし。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 特になし。

Ⅳ. 議題

- 1) 特になし。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

皆さんの施設では、病棟業務(検査室外業務)への職域拡大はされていますか? または検討されていますか? 先日「病棟常駐検査技師」についての研修会に参加しました。そこでのディスカッションでは技師長クラスの方が多かったのですが、「すでに検体採取も行っている」施設もあれば、「検査前説明ぐらいなら」や「まだ議論中」などいろいろな段階の施設の方々がありました。しかし「臨床検査技師がなぜ病棟業務を必要としているのかわからない」と言う方もいて、とても温度差を感じました。

薬剤師、放射線技師、臨床工学技士など他職種が、検査や採血等の領域にも参画しながらいる現在、「このままでは臨床検査技師が要らなくなってしまうという危機感を持ちましょう」という言葉が胸に刺さった研修会でした。行動しないと! ですね…

(石井 記)

